

## 凡例

この『尾崎三雄アフガニスタン資料集』の編纂にあたっては、以下の基本的な方針に基づいて作業を進めた。

1. 入力にあたっては表記法や送り仮名、句読点まで含めて原資料の厳密な再現を原則とした。ただし旧字体の漢字は人名などを除き基本的に新字体とした。難読漢字にはルビを振った。誤記については注で訂正した。簡単な補足説明には「[]」を用いた。元の資料となった「フィールドノート」の改ページ部分にはいちいち破線（\_\_\_\_\_）を挿入してページの改まる箇所を明示した。
2. 地の文はカタカナ入力とし、地名・人名等の固有名詞についてはカタカナ表記のものはその仮入力（但し地の文と区別するため**太字**にした）、ペルシャ語表記のものは原則として平凡社版『イスラーム事典』の方式に従って翻字入力した（ouを使用）。資料中のペルシャ語は実際にはアフガニスタンのダリー語と思われるが、ダリー語の翻字については必ずしも統一的な基準が存在しないため、今回は原則としてすべてペルシャ語の発音で入力し、可能な場合にのみダリー語の発音への変換を検討することとした。
3. ペルシャ語の文章およびメモ書きなどの部分については、入力するか画像処理するかあるいは除外するかについてその都度判断した。スケッチ類については植物の写生などはスキャン処理し、農地の略図などは原則として新たに引き直した。

注のなかで言及した基本資料の略称と書誌情報は以下のとおりである。

- ① （尾崎農業）：尾崎三雄「農業を通じて見たるアフガニスタンの断片」『回教圏』3巻6号（1939年）、2-14頁。
- ② （アーセフィ）：G. バハドル・アーセフィ（パートゥル）『ダリー語——アフガニスタンのペルシア語』（豊文社、1979年）。
- ③ （黒柳）：黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』（大学書林、2002年）。

**追記：**今回アジア経済研究所のホームページ上での公開にあたり、冊子版において散見された誤記などを可能な限り訂正した。

（2007年6月20日記）